

日仏美術交流シンポジウム

シュルレアリスムの時代

越境と混淆の行方

シンポジウム

主旨

昨年、日仏交流一五〇周年を記念して開催されたシンポジウム「日仏芸術交流の一五〇年」で提起された、両大戦間における日仏の芸術の関係をめぐる問題を引き継ぎ、本年度は、とりわけシュルレアリスムを軸として日仏双方の芸術動向をめぐる諸問題について論議を深めるべく、本シンポジウムを開催する運びとなりました。フランスで起こった文学運動であったシュルレアリスムは、無意識や夢といった非合理的な世界を探索するものとして、その後ジャンルを越えて造形芸術・写真・映画といった分野に野火のように拡がり、さらに国境を越えてヨーロッパだけではなく日本に至るまで国際的な拡がりを見せるようになりました。「互いにかき離れた二つの現実の偶然の出会い」を重視したシュルレアリスムは、そもそも異なる世界が混雑するダイナミズムに特に光を当てるものです。日仏の第一線の研究者によって美術史・文学・文化人類学を横断して展開される議論は、シュルレアリスムの孕む多様性・複数性を浮かび上がらせることでしょう。

フランソワーズ・ルヴァイアン
(CNRS研究ディレクター、
アンドレ・シャステル研究センター)

ファブリス・フラユテズ
(西パリ大学ナンテール
ノラ・デファンズ校准教授)

鈴木雅雄
(早稲田大学教授)

村上博哉
(国立西洋美術館学芸課長)

速水 豊
(兵庫県立美術館学芸員)

河本真理
(広島大学准教授)

モデレーター
天野知香
(お茶の水女子大学准教授)

司会
高階秀爾
(日仏美術学会会長、大原美術館館長)

日時：2009年11月22日(日) 10:30～18:00

場所：日仏会館ホール

主催：日仏美術学会

助成：(財)国際文化交流協会

オーガナイザー：天野知香(お茶の水女子大学准教授)、河本真理(広島大学准教授)

要事前登録 入場無料

定員 100名

日仏同時通訳付
(デポジット 1,000円)